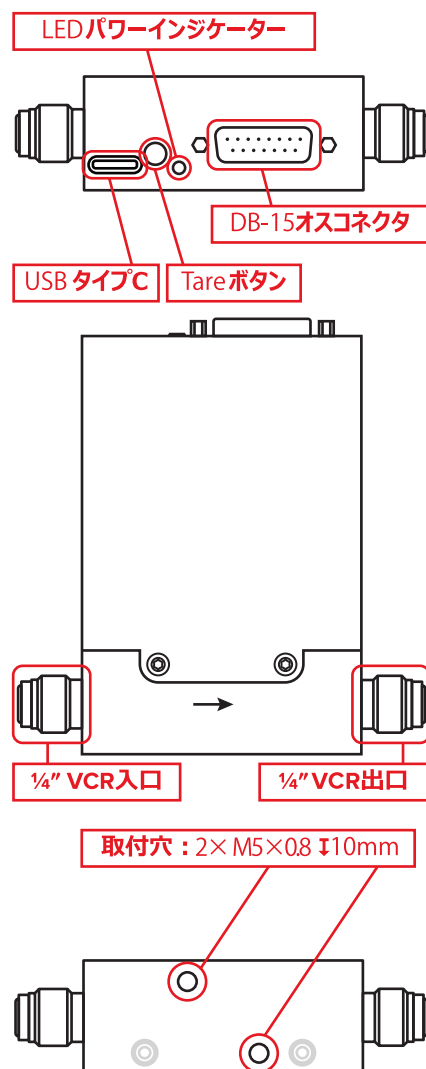


CODAコリオリ式 フローメーター クイックスタートガイド

KMシリーズ



A Halma company



"DB-15 オス
(デバイス側)"



"8ピン M12 オス
(デバイス側)"



Pin	DB-15	M12
1	未使用	質量流量の0~5Vdc出力 (オプション: 0~10Vdc、4~20mA)
2	未使用	電源入力
3	"質量流量の0~5Vdc 出力 (オプション: 0~10Vdc、 4~20mA)	RS-232 Rx また は RS-485 A
4	0~5Vdc 密度出力 (オプション: 0~10Vdc、 4~20mA)	風袋引き用GND
5	GND (アナログ信号)	RS-232 Tx また は RS-485 B
6	未使用	未使用
7	未使用	GND (電源・デジタル)
8	未使用	GND (アナログ信号)
9	電源入力	—
10	GND (電源・デジタル)	—
11	未使用	—
12	風袋引き用GND	—
13	未使用	—
14	RS-232 Tx また は RS-485 B	—
15	RS-232 Rx また は RS-485 A	—

通常マニュアルのダウンロードはこちら

<https://alicat.jp/manuals/>

ボックス内容:

- CODAコリオリ式マスフローメーター本体
- NISTトレーサブル校正証明書
- オプションの付属品
(ケーブル、電源アダプター、フィルター)

はじめに:

1



設置

デバイスを設置します。流れの方向が本体に表示されている矢印と同じ方向であることを確認してください。取り付け姿勢につきましては自由です。

2



電源

DB-15コネクタから電源を供給してください。電源は12~30Vdcが必要です。電源が入ると緑のLEDが点灯します。

3

信号出力

ピン配列の詳細は裏面をご覧ください

アナログ: 0~5Vdcで信号出力可能 (0~10Vdc、4~20mAも選択可能)

デジタル: USB-C・RS-232・RS-485・RS-232またはRS-485によるMODBUS RTU

4

デバイスはすぐに使用可能ですが、最高の精度を得るために15分間のウォームアップ時間を設けてください。

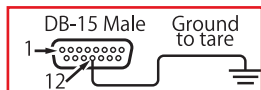
5

測定する流体をデバイスに流します。デバイス全体に流体を満たしてからご使用ください。

6

ゼロ (風袋引き)

ステップ5が完了したら、以下の3つの方法のいずれかで風袋引きを行います。



アナログ: GNDとピン12を最低1秒間短絡させます。(ピン配列の詳細は裏面をご覧ください)

デジタル: MODBUSやLabVIEWを含むシリアル風袋引きオプションについては、完全なマニュアルをご覧ください。

ボタン: デバイス上部のTareボタンを10秒長押しします。

お問合せは正規代理店 日本スターテクノ株式会社までご連絡ください。



日本スターテクノ株式会社
Japan Star Techno Co., Ltd.

TEL 06-4397-4571



通常マニュアルのダウンロードはこちらから

▶ <https://alicat.jp/manuals/>